



【先週のメッセージより】 ルカ 22:31-34、54-62

### 「主のまなざし」

イエスが裁判にかけられた晩、ペテロは鶏が二度鳴く前にイエスを三度否んだ。ルカの福音書のみが、その時、イエスがペテロをご覧になったことを記録している。イエスはどのようなまなざしでペテロをご覧になったのだろうか？

● **あなたは失敗する** と言われて嬉しい人はいない。私たちのプライドが傷つくからである。しかし、これこそ神が私たちに仰られることである。私たちは残念ながらことごとく失敗するのである。しかも成功している時がもっとも危険である。モーセは最後に失敗して約束の地に入らなかった。警告を受けていたネブカデネザル王も警告を忘れ失敗した。献身し、主の働きを一生懸命する中でも私たちは失敗するが、実は「それでいいのである」。いうのは失敗こそ、私たちの「自己中心、自己欲」を削り取る最大の道具だからである。真理は私たちを自由にする。

● **自分の頑張りの宗教** 逮捕されたイエスについて行ったペテロが、父なる神に勇気を与えてくれるように祈った形跡は一つもない。彼はまさに「肉の力」に頼って、あらん限りの勇気を振り絞って、イエスについて行こうとした。これこそ誤った宗教、役に立たない宗教の原型である。ここにあるのは自分に対する信仰であり、神に対する信頼ではない。このような宗教は必ず破綻するのである。

● **主のまなざし** 主は失敗したあとのペテロを最初からご覧になっていたことを覚えてほしい。だからこそ、主は、予め彼に「わたしはあなたの信仰がなくなるといふに、あなたのために祈りました。だから、あなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」32節と語られたのである。主が心に留めておられるのは、私たちの成長である。主はいつも「愛のまなざし」で私たちを見ておられることを思い出そう。謙遜にさせられているクリスチャンこそ、真に悪に打ち勝つ力を持つようになることを最後にぜひ覚えてほしい。 ■

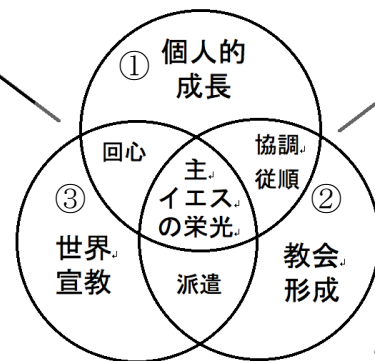
### 【聖霊との歩み（4）まとめ】

● 私たちが日々、聖霊様に導かれ、聖霊様に満たされて歩いていくために聖霊様が私たちの人生で何をなさろうとしているのかを視覚的に理解しておくとお助かります。以下の図を是非頭に入れて歩んでまいりましょう！



① ご聖霊はキリストを受け入れた者一人一人をご自分の住まいとされる（内住）。有能な家庭教師のごとく、神の子供たちと一歩一歩、共に歩み、神の子供とされていることの確信を与え、罪に打ち勝つ方法を教え、聖書を教え、真理に導かれる。その究極の目的は私たちをキリストに似た者にすることである（聖化）。人の成長は他人との関わりを通して実現するが、その場として、神は信者の集まりである教会を備えられた。 2) に続く ↓

③ ご聖霊は全世界に遣わされており、どの時代でも世界宣教を主導されてきた。ご聖霊は宣教のための計画を持っておられ、宣教の進め方を指導される。人はご聖霊によって宣教のための賜物を与えられ、ご聖霊に満たされることによって、宣教のため力を注がれて証人としての働きを全うしていく。その結果、人は救われる。 ↑ 1) に戻る



② ご聖霊の働きはキリストの花嫁である教会を建て上げキリストのために整えることである。そのためにご聖霊は使徒、長老、執事、教師、牧師等を立て、人が互いに愛し合うことを訓練し、教会がキリストの体として地の塩、世の光としての役割を果たすよう導かれる。教会は人を世に派遣し、神の業を行わせる。 ← 3) に続く